

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む 授業の在り方に関する研究（1年次）

～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して～

【2年研究】

社会/地理歴史・公民

【研究の概要】

次期学習指導要領では、「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据え改訂される。本研究は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善と学習評価の改善に取り組み、資質・能力の「三つの柱」の育成につなげる授業の在り方について提案するものである。

キーワード：次期学習指導要領 課題解決型 基軸となる問い 答申 見方・考え方

《研究協力校》

岩手県立岩泉高等学校

《研究協力員》

花巻市立花巻北中学校 教諭 吉田 優哉（社会科）

岩手県立大船渡東高等学校 教諭 斎藤 信太郎（地理歴史科・公民科）

岩手県立花巻北高等学校 教諭 泉 径宏（地理歴史科・公民科）

岩手県立福岡高等学校 教諭 外山 えり子（地理歴史科・公民科）

平成 29 年 3 月

岩手県立総合教育センター

教科領域教育担当

鈴木 徹

泉 田 学

目 次	
I 研究主題	p. 2
II 研究主題設定の理由	p. 2
III 研究の目的	p. 2
IV 研究の目標	p. 2
V 研究の見通し	p. 3
VI 研究の構想	p. 4
1 研究についての基本的な考え方	p. 4
(1) 現行学習指導要領の社会科・地理歴史科・公民科の成果と課題について	p. 4
(2) 社会科, 地理歴史科, 公民科で育成を目指す資質・能力	p. 4
(3) 社会科・地理歴史科・公民科における「見方・考え方」について	p. 6
(4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現について	p. 7
2 実践に向けて	p. 8
(1) 社会科・地理歴史科・公民科における資質・能力を育成する学習過程について	p. 8
(2) 単元構想について	p. 10
(3) 学習評価の在り方について	p. 10
3 研究構想図	p. 13
VII 理論構築のための授業実践	p. 14
1 中学校における授業実践	p. 14
2 高等学校における授業実践	p. 23
3 理論実践のための留意点	p. 35
VIII 成果と課題	p. 37
1 研究の成果	p. 37
2 課題	p. 37
3 来年度に向けて	p. 38
IX 引用文献, 参考文献及び参考Webページ	p. 39

I 研究主題

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究【2年研究】

－「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して－

II 研究主題設定の理由

平成27年8月、中央教育審議会教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領の基本的方針について「論点整理」(2015)にまとめた。その後、平成28年8月には「論点整理」を踏まえ「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(以下「審議のまとめ」という)」(2016)が取りまとめられ、同12月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(以下「答申」という)」(2016)が出された。それらの中で、グローバル化による社会の多様性や急速な情報化、技術革新による人間生活の質的な変化の影響により、子供たちの成長を支える教育の在り方も新たな事態に直面していると指摘している。

これからの社会を創り出していく子供たちに求められる資質・能力とは何かを、学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるのか』という観点から、育成を目指す資質・能力を以下の三つの柱(以下「三つの柱」という)で整理している。

- ① 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養)」

これら「三つの柱」をバランスよく育むためには、『何を学ぶのか』という指導内容等の見直しとともに、それらを『どのように学ぶのか』という子供たちの具体的な学びの姿について「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点からの見直しが欠かせないものとしている。

こうした流れを受け、本研究では、「三つの柱」を総合的に育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点からの授業改善に取り組んでいく。その際、指導法を一定の型にはめ、狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないようにすることに留意していく。また、授業をより充実したものにしていくために、「生徒たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉える学習評価についても取り組んでいく。あわせて、学習評価の内容を学習・指導方法の改善につなげていくカリキュラム・マネジメントの考え方についても検討していく。

III 研究の目的

次期学習指導要領が目指す資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むため、中学校、高等学校の教員に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善と生徒の学習の成果を的確に捉える学習評価の改善を促す。

IV 研究の目標

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むため、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の在り方と生徒たちの学習の成果を捉える学習評価の在り方について研究し、研究内容をガイドブックにまとめ、授業実践により、その有効性を

明らかにする。対象校種・教科は、中学校及び高等学校の国語科，数学科，理科，社会科，地理歴史科，公民科，外国語（英語）科とする。

V 研究の見通し

中学校及び高等学校の国語科，数学科，理科，社会科，地理歴史科，公民科，外国語（英語）科における授業において，「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善，及び生徒の学習の成果を適切に捉える学習評価の改善を行うことによって，資質・能力の「三つの柱」が生徒にバランスよく育成されることを目指す。

1年次は研究理論の構築をし，2年次は研究理論に基づいた授業実践からの検証を行う。

VI 研究の構想

1 研究に対する基本的な考え方

(1) 現行学習指導要領の社会科・地理歴史科・公民科の成果と課題について

現行学習指導要領の社会科・地理歴史科・公民科の成果と課題について「答申」においては、下記のように記されている。

ア 成果

社会科，地理歴史科，公民科においては，社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し，公正に判断する能力と態度を養い，社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて，改善が目指されてきた。

イ 課題

主体的に社会の形成に参画しようとする態度や，資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。また，社会的な見方や考え方については，その全体像が不明確であり，それを養うための具体策が定着するには至っていないことや，近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること，課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと等も指摘されている。

ウ 次期改訂において

これらの課題を踏まえるとともに，これからの時代に求められる資質・能力を視野に入れば，社会科，地理歴史科，公民科では，社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し，知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力，自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力，持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など，国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育てていくことが求められる。

(2) 社会科，地理歴史科，公民科で育成を目指す資質・能力

社会科，地理歴史科，公民科で育成を目指す資質・能力について，「答申」においては，以下のように記されている。

資質・能力の具体的な内容としては，「知識・技能」については，社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能として，「思考力・判断力・表現力等」については，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想する力や，考察したことや構想したことを説明する力，それらを基に議論する力として，また，「学びに向かう力・人間性等」については，主体的に学習に取り組む態度と，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情などとして，それぞれ校種の段階や分野・科目ごとの内容に応じて整理することができる。【表 1】

【表 1】社会科，地理歴史，公民科において育成を目指す資質・能力の整理（「答申 別紙資料」より）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学校 社会科	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土と歴史や現代社会の政治，経済，国際関係に関する理解 社会的事象について調べまとめる技能（調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題を把握し，解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について主体的に調べ分かつうとして課題を意欲的に追究する態度 よりよい社会の実現を視野に社会に関わろうとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等（我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚）
高等学校 地理歴史科	<ul style="list-style-type: none"> 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関する理解 社会事象について調べまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる諸事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察したり，課題を把握し，その解決に向けて構想したりする力 考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり，それらを基に議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる諸事象等について主体的に調べ分かつうとして課題を意欲的に追究する態度 よりよい社会の実現を視野に社会に見られる諸課題の解決に関わろうとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等
高等学校 公民科	<ul style="list-style-type: none"> 諸課題を捉え考察し，国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論の理解 倫理的主体，政治的主体，経済的主体，法的主体，様々な情報を発信・受信主体，持続可能な社会づくりの主体に関する理解 社会的事象等について効果的に調べまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 諸課題について，事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり，公正に判断したりする力 合意形成や社会参画を視野に入れながら，社会的事象や課題について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性等を指標にして論拠を基に議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> 人間と社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べ分かつうとして課題を意欲的に追究する態度 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見出し，その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し，論拠を基に説明・議論することを通して，社会に参画しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，人間としての在り方生き方についての自覚，自国を愛しその平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚等

※社会科においては分野別に細分化され，さらに具体化されている。地理歴史科，公民科においては科目別に細分化され，さらに具体化されている。またその場合の科目名称は平成 29 年度（2017）に改訂予定のものである。

(3) 社会科、地理歴史科、公民科における「見方・考え方」について

社会科、地理歴史科、公民科における「見方・考え方」について、「答申」においては、以下のように記されている。

「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。そこで、小学校社会科においては、「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」を「社会的事象の見方・考え方」として整理し、中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科においても、校種の段階や分野・科目の特質を踏まえた「見方・考え方」をそれぞれ整理することができる。その上で、「社会的な見方・考え方」をそれらの総称とした。こうした「社会的な見方・考え方」は、社会科、地理歴史科、公民科としての本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体に関わるものであると考えられる。【表2】

【表2】社会科、地理歴史、公民科における「社会的な見方・考え方」（「答申 別紙資料」より）

中学校社会	地理的分野	社会事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
	歴史的分野	社会事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
	公民的分野	現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
高等学校地理歴史科	地理総合 地理探究	社会事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
	歴史総合 世界史探究 日本史探究	社会事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にした後、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。

高等学校 公民科	公共	人間と社会の在り方についての見方・考え方	社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
	倫理	人間と社会の在り方生き方についての見方・考え方	社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
	政治・経済	社会の在り方についての見方・考え方	社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

※ 高等学校の科目名称は平成 29 年度（2017）に改訂予定のもの（仮称）である。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現について

「主体的・対話的で深い学び」の実現については、「答申」の第 1 部第 7 章において、以下のよう記述されている（①～③）。これに対応させる形で、第 2 部第 2 章の「社会、地理歴史、公民」での記述を に併記する。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。

- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

対話的な学びについては、例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘されることあり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。

また、主体的・対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的である。

- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

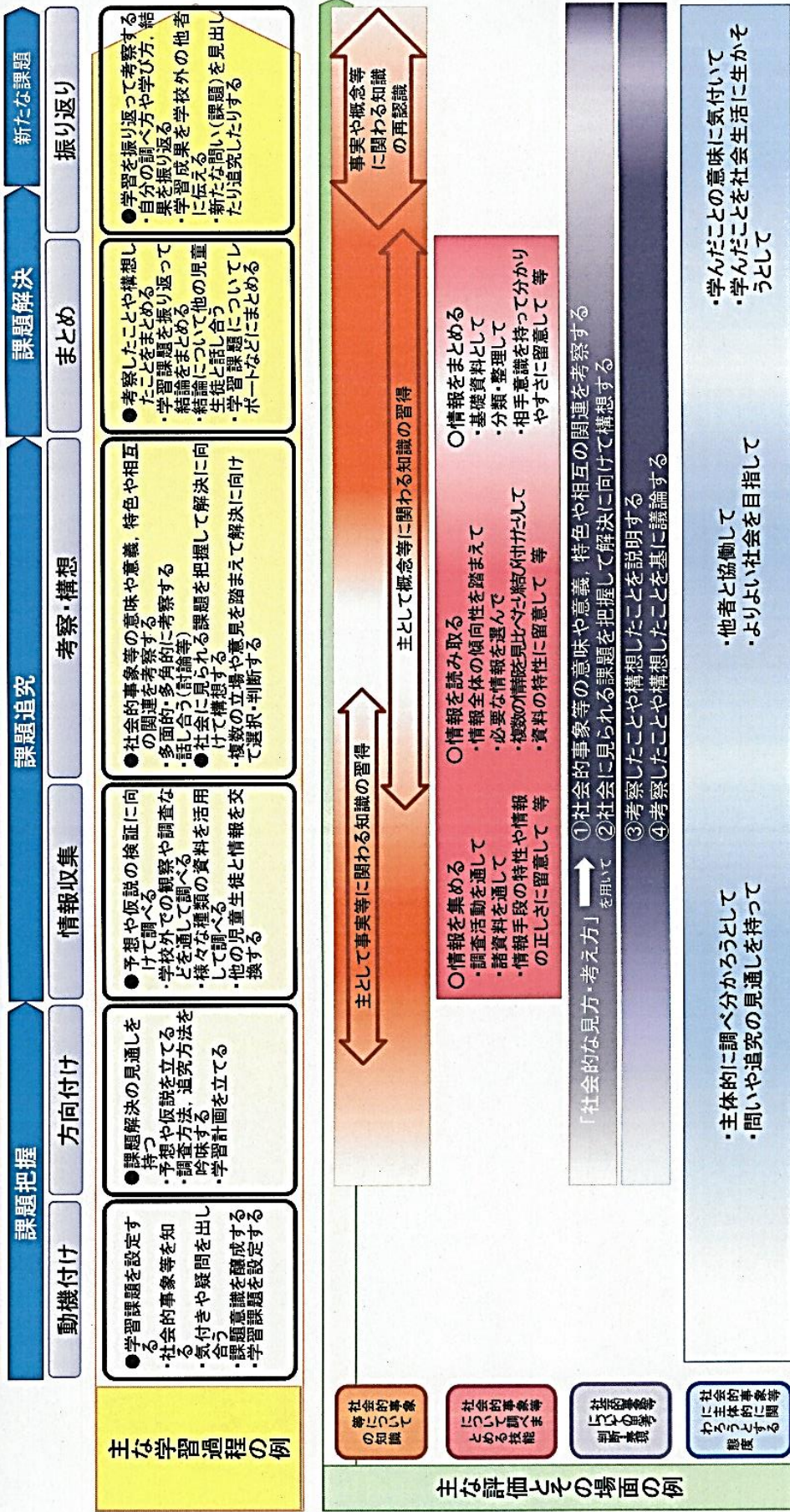
これらのことを踏まえるとともに、深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。このような観点から、例えば特に小・中学校における主権者教育の充実のため、モデル事業による指導法の改善や単元開発の実施、新しい教材の開発・活用など教育効果の高い指導上の工夫の普及などを図ることも重要である。

2 実践に向けて

(1) 社会科，地理歴史科，公民科における資質・能力を育成する学習過程について

中学校では「公民的な資質・能力」を、高校では「公民としての資質・能力」を養うのが社会、地理歴史、公民での学びであるが、質の高い理解を図るためには社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動の充実が必要であると考え。そのためには、1で示した諸事項をベースに学習過程をデザインしていくことが必要となる。この1単位時間分の学習過程のイメージ【図1】を次頁に示す。

社会科，地理歴史科，公民科における学習過程のイメージ



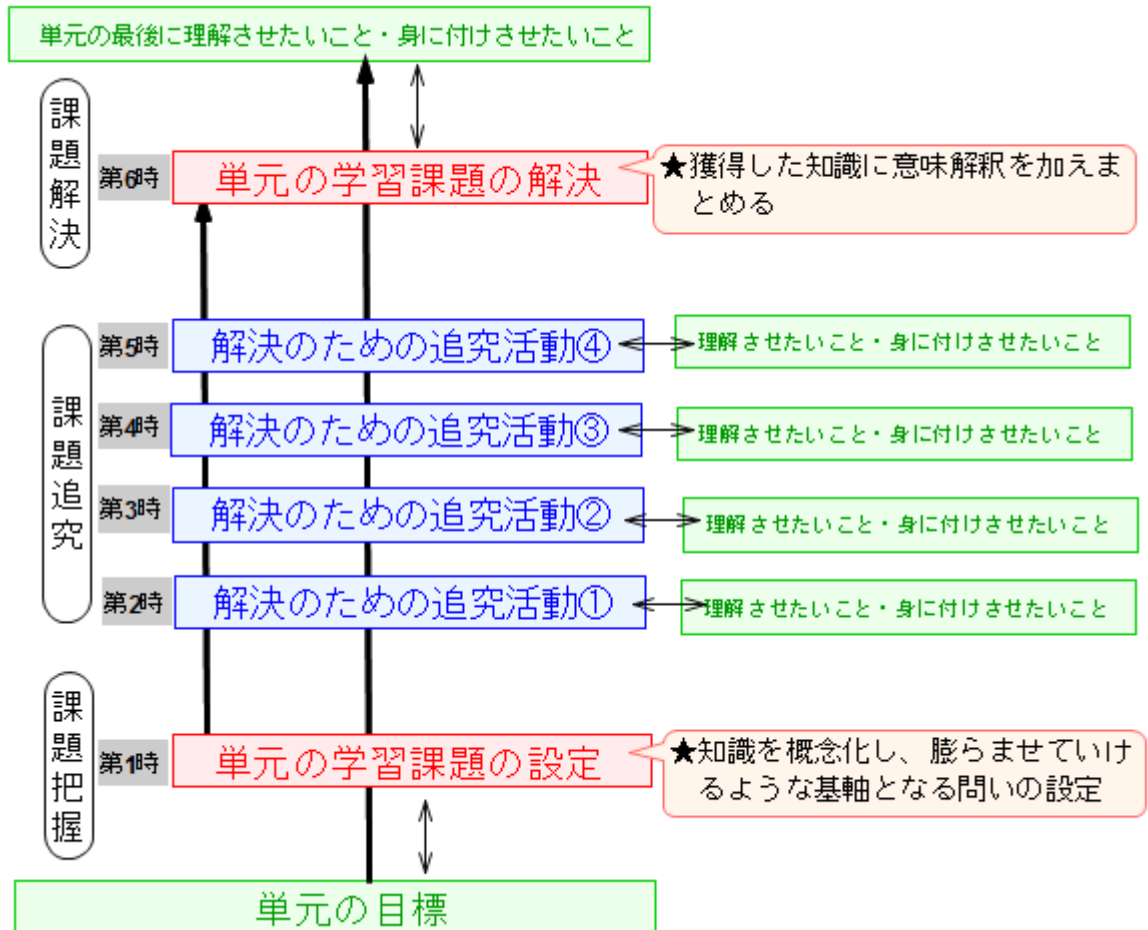
■ 学習過程全体について留意すべき点

- ・上記の学習過程及び評価の場面は例示であり，上例に限定されるものではないこと
- ・「主体的・対話的で深い学び」を意図した，単元の構成の工夫等が望まれること
- ・社会的現象等については，児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際，特定の事柄を強調しすぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより，児童生徒が多面的・多角的に考察し，事実を客観的に捉え，公正に判断することの妨げることのないよう留意すること。また，客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

【図1】 学習過程のイメージ

(2) 単元構想について

社会科，地理歴史科，公民科の目標実現のためには単元ごとの目標や身に付けさせたい力を明確に設定していく必要がある。ここでも「アクティブ・ラーニング」の三つの視点を意図した単元構想が必要である。単元の目標に沿った単元の「基軸となる問い」から，諸資料を適切に活用しながら「社会的な見方や考え方」を用いて構想していく工夫が望まれる。【図2】



【図2】単元構想のイメージ

(3) 学習評価の在り方について

ア 評価の観点

育成すべき三つの柱と学校教育目標と重ね合わせ，学校全体で育成したい資質・能力を確認し（学校全体としてのカリキュラム・マネジメント），それに則り，社会，地理歴史，公民科の授業についても，教育課程全体の中での位置付けを確認し，教科，単元，学習過程の中に生かす（教科としてのカリキュラム・マネジメント）。三つの柱に沿った資質・能力と評価の観点との対応関係で考えると，社会科，地理歴史科，公民科においても評価の観点の在り方は，育成すべき資質・能力と一貫性をもったものに改善することが求められ，【表1】のように整理される。

※平成28年11月現在，本県高等学校では観点別評価（四観点に基づく）の完全実施は平成29年度からとされている。

【表1】 評価の観点

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
社会的事象（等）についての知識技能	社会的事象（等）についての思考・判断・表現	主体的に社会事象（等）に関わろうとする態度
<p>○社会的事象（等）について（～は～である）理解し、その知識を身に付けている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として事実等に関わる知識（用語・語句などを含める） ・主として概念等に関わる知識（特色、意味、理論など） <p>○社会事象（等）を調べまとめる技能（社会的事象（等）に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技術）を身に付けている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報全体の傾向性を踏まえて ・必要な情報を選んで ・複数の情報を見比べたり結びつけたりして ・資料の特性に留意して（例：情報を読み取る技術の場合） 	<p>○社会的な見方や考え方をを用いて、社会的事象（等）の意味や意義、特色や相互の関連を考察している</p> <p>○社会的な見方や考え方をを用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している</p> <p>○考察したことや構想したことについて、説明したり議論したりしている</p>	<p>○学習対象（社会的事象（等））について主体的に調べたり分かろうとしたりしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いや追究の見通しをもって ・振り返り、学んだことの意義に気付いて ・身に付けた追究の視点を新たな問いに生かして ・学んだことを社会生活に生かそうとして <p>○課題（学習上の課題、社会に見られる課題）を意欲的に解決しようとしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く（試行錯誤して） ・他者と協働して ・よりよい社会を目指して

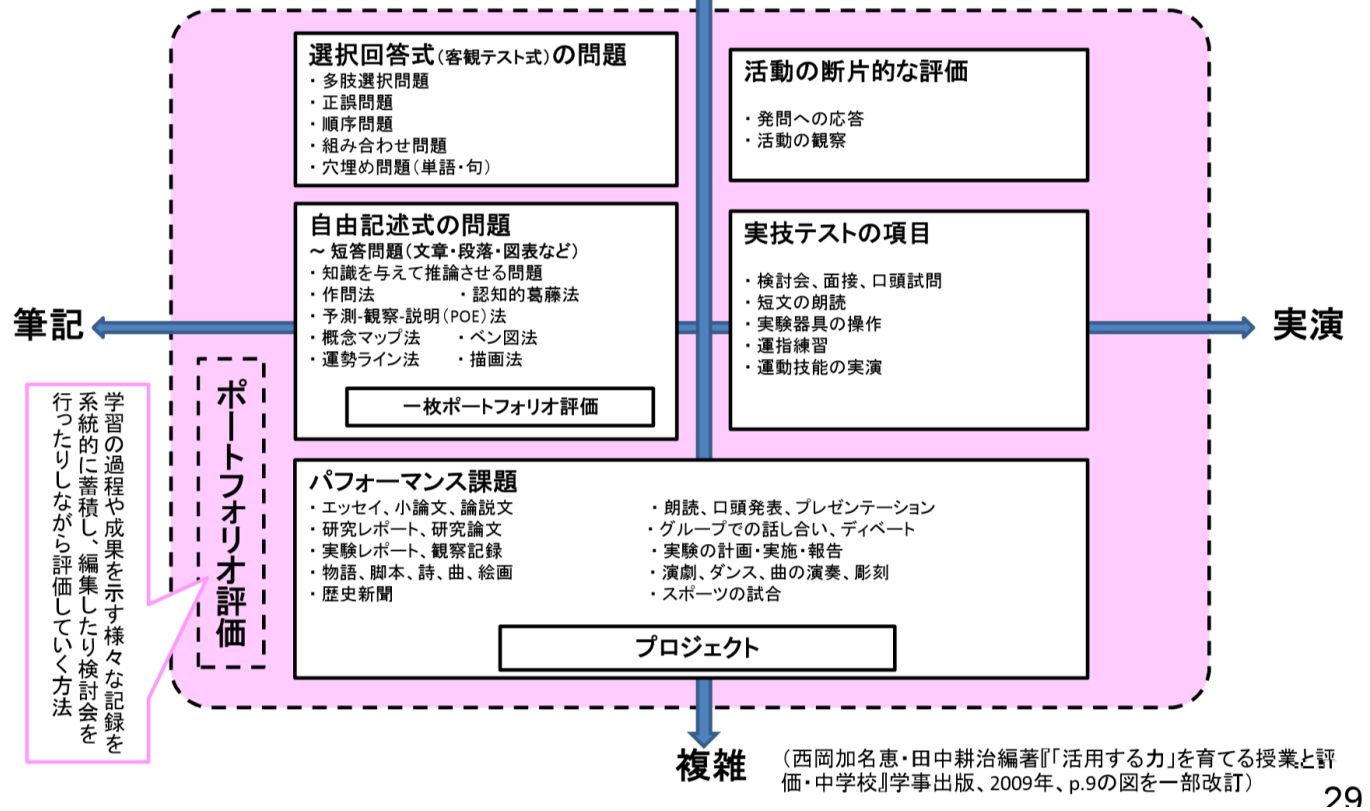
イ 評価の方法

授業実践においては生徒一人一人の成長を捉えるための評価方法を工夫するとともに、生徒の学習意欲等を高めるために、鋭意生徒へのフィードバックを行う。また、生徒が自分の資質・能力の伸びを把握できるよう、パフォーマンス評価やポートフォリオ評価などを活用していく。（【図3 評価の方法イメージ参照】）

このパフォーマンス評価やポートフォリオ評価で用いられる評価基準がルーブリックであり、生徒のパフォーマンスの質を評価するための基準である。後述する高等学校での授業実践の、単元のまとめにおけるレポート評価の例を【図4】に示す。

育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容
と評価の在り方に関する検討会(第8回)
平成25年8月30日配付資料を一部改訂
(西岡加名恵委員)

パフォーマンス評価
知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを
求めるような評価方法(問題や課題)の総称。多くの場合、「選択
回答式(客観テスト式)の問題」以外の評価方法を指す。

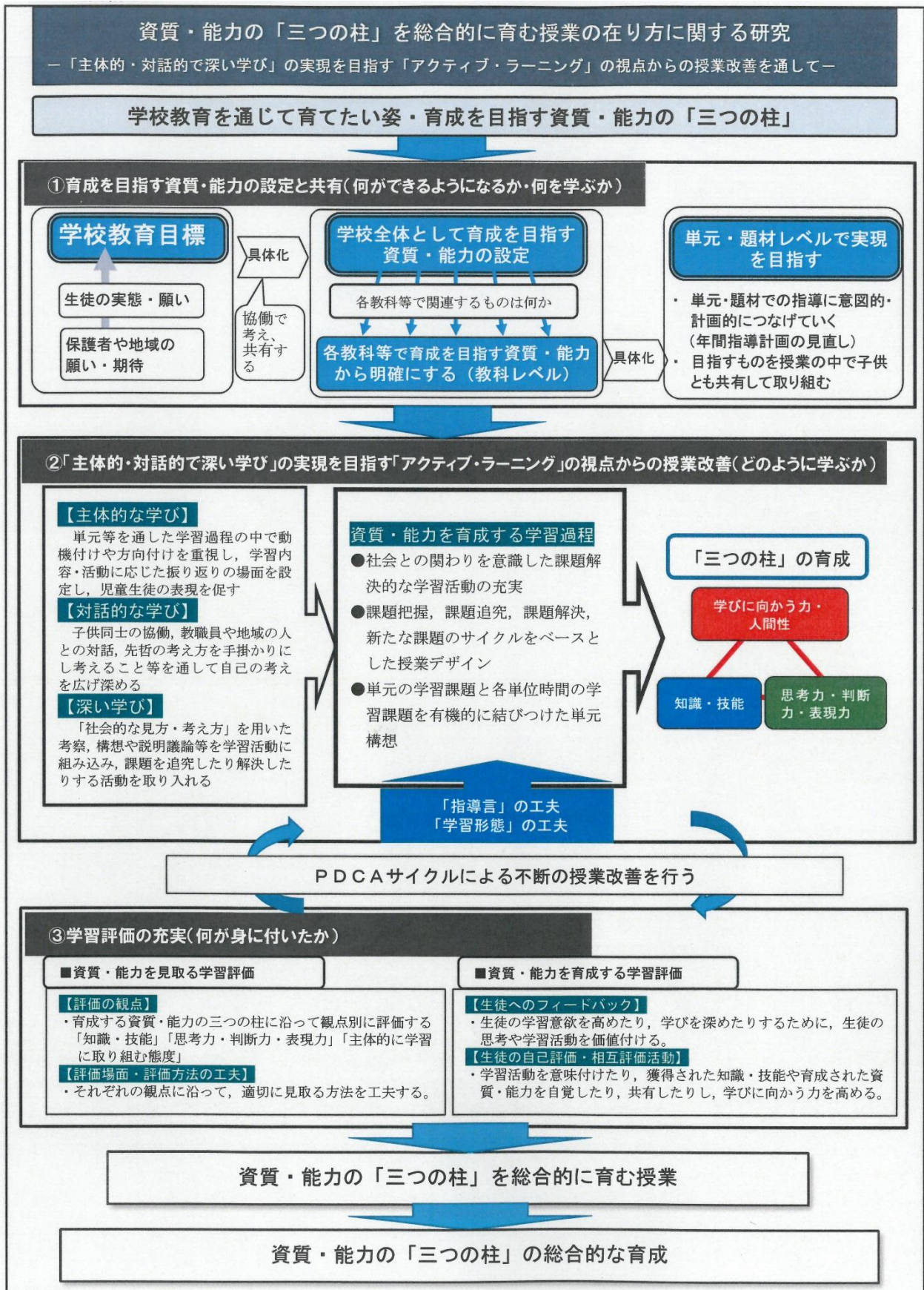


【図3】評価の方法のイメージ

よりよく生きるために、自分はどうあれば良いのか	
観点	主体的に社会事象(等)に関わろうとする態度
レベル3	自己の生き方を社会事象(等)との関わりの中で、発展的に述べている。
レベル2	自己の生き方を社会事象(等)との関わりの中で述べている。
レベル1	自己の生き方を述べているが、社会事象(等)との関わりが不十分である。

【図4】ルーブリックの例

3 研究構想図



Ⅶ 理論構築のための授業実践

前段までの構想を踏まえてデザインした授業の実践例を下記に示す。なお、1の中学校における実践事例は、前頁の研究構想図のうち、②「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の提案であるが、2の高等学校における授業実践は、昨年度の先行研究を取り入れ、②に加えて、①の「育成を目指す資質・能力の設定と共有」についても試行したものである。

1 中学校における授業実践

研究協力員所属校の花巻市立花巻北中学校での授業実践について、単元の計画及び、2単位時間分の実践（研究担当者による実践分）を掲載する。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

第1学年社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 平成28年10月31日～

学 級 花巻市立花巻北中学校 第1学年

指導者 研究担当者及び研究協力員

ア 単元の計画

1 単元名 第1編 世界のさまざまな地域 第3章 世界の諸地域 第4節 北アメリカ州
2 単元の目標および単元で働く「見方・考え方」 (1) 単元の目標 <ul style="list-style-type: none">・北アメリカ州について、世界をリードする産業に視点をあて地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができるとともに、それらの事象について効果的に調べまとめることができる。（社会的事象等についての知識・技能）・北アメリカ州について、世界をリードする産業に視点をあて地域的特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。（社会的事象等についての思考・判断・表現）・北アメリカの地域的特色について、世界をリードする産業に視点をあて主体的に調べ分かってもらうとして、課題を意欲的に追究しようとしている。（社会的事象等に主体的に関わろうとする態度） (2) 単元で働く「見方・考え方」 <p>北アメリカ州の産業について、位置や空間的な広がりに着目して捉え、北アメリカ州の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける。</p>
3 単元について (1) 教材について <p>地理的分野の内容（1）「世界の様々な地域」のウ「世界の諸地域」については、各州の概観した上で、州内の人々の生活と密接に関わる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を取り上げて学習し、州の地理的特色を捉えさせることをねらいとしている。</p> <p>本単元は、北アメリカ州の地域的特色を、世界をリードする産業に視点をあて追究することを通して、単元の目標に迫ろうとするものである。</p> (2) 生徒について（略）

(3) 指導にあたって

自然環境と主な国々を捉えることにより北アメリカ州を概観する。その知識を活用しながら、世界をリードする「産業」に視点をおき、その地理的・歴史的背景、生活・文化との関わりを考察していくことで州の地理的特色を捉えさせる。

「2単元の目標」に挙げた学習活動について動機付けや方向付け等の「課題把握」、情報収集や考察・構想等の「課題追究」、まとめや振り返り等の「課題解決」の三つの学習過程を取り入れ、展開することで学習内容の定着と資質・能力の育成を両立する学びを目指したい。

4 単元の評価規準		
社会的事象等についての知識・技能	社会的事象等についての思考・判断・表現	社会的事象等に主体的に関わろうとする態度
<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州の主な国々や地形、気候の特色、人口分布の様子について、地形図や主題図から読み取り、その特色について知識を身に付けている。 アメリカ合衆国において、ヒスパニックの人口が増え続けている理由について調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国が世界有数の農産物生産国、輸出国に発展できた理由について考察し、説明している。 アメリカ合衆国の工業がどのように発展し、どのように変化してきたのか、その背景について考察し説明している。 アメリカ合衆国において農業や工業が盛んな理由とその背景について考察し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ（特にアメリカ合衆国）で農業や工業が盛んなことに関心を高め、その背景について追究し捉えようとしている。

5 単元の指導と評価の計画		
時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州を写真で概観する。 北アメリカ州の歴史的背景について確認する。 本時の学習課題を設定する。 「北アメリカ州の地形や気候、人口分布にはどのような特色があるのか。」 地形図や主題図から読み取った内容について調べて学習シートにまとめる。 	<p>【評価規準B】(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州の地形、気候の特色、人口分布の様子について、地形図や主題図から読み取り、その特色について知識を身に付けている。 〈Aの視点〉 地形、気候、人口分布の特色を関連付けて読み取りまとめている。 〈Cの手立て〉 資料読み取りの視点を確認する。 〈評価方法〉 学習シート 地形、気候、人口分布の特色を関連付けて読み取った記述内容
	<ul style="list-style-type: none"> 主な農産物、工業製品の生産国についての資料から単元の学習課題を設定する。 「なぜアメリカ合衆国では、農業・工業ともに世界有数の生産が可能なのか」 単元の学習課題解決に向けて見通しを持つ。 	<p>【評価規準B】(主体的に関わろうとする態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ（特にアメリカ合衆国）で農業や工業が盛んなことに関心を高め、その背景について追究し、捉えようとしている。 〈Aの視点〉 単元の学習課題について、農業、工業それぞれ2つ以上の視点から課題追究の見通しを持っている。 〈Cの手立て〉 日常の身近な事例と関連付ける。

		<p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習シート 単元の学習課題解決に向けた追究の視点の記述内容
2	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国が世界有数の農産物の生産国、輸出国であることを統計資料から読み取る。 本時の学習課題を設定する。 「アメリカ合衆国は、なぜ世界有数の農産物の生産国であり、輸出国に発展できたのか」 学習課題解決の見通しを持つ。 栽培の特徴（適地適作）、経営の特徴（企業的な農業）の2つの視点で追究活動を行う。 ※2つの視点について、ペアで分担して追究し、その後交流する。 学習課題について振り返る。 	<p>【評価規準B】（思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国が世界有数の農産物生産国、輸出国に発展できた理由について考察し、説明している。 <Aの視点> 適地適作と企業的な農業の利点を関連させて考察し、説明している。 <Cの手立て> 日本と比較する視点をもたせる。 <評価方法> 学習シート 振り返りの記述内容
3	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国が世界有数の工業であることを統計資料から読み取る。 本時の学習課題を設定する。 「アメリカ合衆国の工業が、なぜ世界をリードし続けることができているのか。」 学習課題解決の見通しを持つ。 アメリカ全体の工業生産に占める各地域の割合の変化（1960年と2009年の比較）から工業生産の中心地域が変化していることを読み取る。 20世紀後半（1970年代）の停滞期前後の20世紀前半～20世紀中頃（1960年）と20世紀後半以降（2009年）の工業の中心地、発展の様子や背景について考察し、説明する 学習課題について振り返る。 	<p>【評価規準B】（思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の工業がどのように発展しどのように変化してきたのか、説明している。 <Aの視点> 工業の特色の変化とその背景について関連付けて考察し、説明している。 <Cの手立て> 日常の身近な事例と関連付ける <評価方法> 学習シート 振り返りの記述内容
4	<ul style="list-style-type: none"> アメリカで生まれの生活スタイルや文化が世界に広まっていることを日常の生活実感と結び付けて理解する。 本時の学習課題を設定する。 「世界に大きな影響力を及ぼすアメリカ合衆国の産業や生活スタイルや文化は、どのような人々によって支えられているのか。」 アメリカにおいてヒスパニックの人口が増え続けている背景について、まとめる。 	<p>【評価規準B】（知識・技能）</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国において、ヒスパニックの人口が増え続けている理由について調べまとめている。 <Aの視点> ヒスパニックの人口が増え続けている理由について、アメリカの立場、ヒスパニックの人々の立場の両面からまとめている。 <Cの手立て> 合衆国と出身国の経済格差について説明する。 <評価方法> 学習シートの記述内容
	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習課題「なぜアメリカ合衆国では農業・工業ともに世界有数の生産が可能なのか。」について振り返る。 	<p>【評価規準B】（思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国において、農業、工業ともに世界有数の生産が可能な理由について考察し、説明している。 <Aの視点> 農業、工業ともに世界有数の生産が可能な理由とその背景について関連させて考察し説明している。 <Cの手立て> 学習シートの振り返り欄を再確認させる。 <評価方法> 学習シート 単元の振り返りの記述内容

イ 実践授業 1

本時の目標 (本時 1 / 4)
① 北アメリカ州の主な国々や地形, 気候, 人口分布の様子について, 地形図, 主題図から読み取り, 基礎的・基本的な知識を身に付けている。
② 北アメリカの地域的特色を理解するために, 特にアメリカ合衆国に注目しながら統計資料を活用し, 世界有数の産業に視点をあて単元の学習課題を設定する。

① 展開前半

学習過程	学習活動 ◎・予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題把握 10分	<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州に属する主な国々の名称と位置を調べる。 北アメリカ州の人々と文化について既知知識を基に概要を確認する。 北アメリカ州を写真で概観し, 多様性が見られる要因を考える。 <p>◎ 地形, 気候 (気温, 降水量), 人口分布等の違いが要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> カナダ, アメリカ合衆国, メキシコの国名と位置を捉えさせる。 15世紀以降にヨーロッパからの移民が開拓した地であることを確認する。 「アラスカの氷河」, 「カナディアン・ロッキー」, 「広大な小麦畑」, 「グランドキャニオン」, 「メガロポリス」, 「マイアミビーチ」の写真資料を提示し解説する。
課題追究 22分	<p>2 学習課題を設定する。</p> <p>北アメリカ州の地形や気候, 人口分布にはどのような特色があるのか。</p> <p>3 「北アメリカ州の主な地形の位置名称, 特徴」について調べまとめる。</p> <p>(1) 個人で調べまとめる。</p> <p>(2) ペアで交互に説明し合う。</p> <p>4 「北アメリカの年降水量・年平均気温」と「北アメリカの人口」の2つの主題図を列ごとに分担して読み取る。</p> <p>(1) 個人で読み取り, 学習シートにまとめる。</p> <p>(2) 同じ主題図の読み取りを担当した前後のペアで読み取り内容を確認しながら, 説明し合う。</p> <p>(3) 別々の主題図の読み取った隣同士ペアで読み取り内容を説明し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ロッキー山脈」, 「アパラチア山脈」, 「グレートプレーンズ」, 「プレーリー」, 「中央平原」, 「西インド諸島」を取り上げる。 効果的な説明の仕方を演示する。 2つの主題図それぞれについて, 全体で凡例を確認し, 読み取りの視点を持たせる。 読み取りを担当しなかった資料についてもペアの説明を基に理解する。
課題解決 5分	<p>5 4, 5の活動で読み取った三つの資料を関連付けて読み取れることを学習シートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 西経100度線を境に東部と西部の様子を比較して読み取らせる。

		<p>【評価規準】（知識・技能） 北アメリカ州の地形、気候の特色、人口分布の様子について、地形図や主題図から読み取り、その特色について知識を身に付けている。（学習シートの記述）</p> <p><Aの視点> ・地形、気候、人口分布の特色を関連付けて読み取りまとめている。</p> <p><Cの手立て> ・資料読み取りの視点を確認する。</p>
	<p>（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西部の地域は全体的に標高が高い。また、降水量は少なく、人口密度は低い傾向にある。 ●東部の地域は全体的に標高が低い。また、『降水量は多く、人口密度は高い傾向にある。』 ●気温は南の地域ほど高い。 	

② 展開後半

学習過程	学習活動 ◎・予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題把握 13分	<p>1 課題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の中の北アメリカ州について面積や人口、GNPの視点で確認する。 ・主な農産物、工業製品の生産割合上位国から北アメリカ州に属する国々を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">◎ 多くの農産物、工業製品でアメリカ合衆国の生産割合が特に多い。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国に焦点化して面積、人口、GNPを確認する。 <p>2 学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">なぜアメリカ合衆国では、農業、工業ともに世界有数の生産が可能なのか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ中の北アメリカ州の国々に着色させ、読み取れることを交流させる。
	<p>3 単元の学習課題について解決の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">◎ 農業・大規模、機械化 等</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">◎ 工業・技術力、豊富な資源等</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">◎ 共通・豊富な労働力、広大な土地等</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業、工業それぞれと共通して考えられる要素について見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】（主体的に関わろうとする態度） 北アメリカ州（特にアメリカ合衆国）で、農業や工業が盛んなことに関心を高め、その背景について追究し、捉えようとしている。（学習シートの記述）</p> <p><Aの視点> ・単元の学習課題について、農業、工業それぞれ2つ以上の視点から課題追究の見通しを持っている。</p> <p><Cの手立て> ・日常の身近な事例と関連付ける。</p> </div>
	<p>4 次時以降の見通しをもつ。</p>	

ウ 実践授業 2

本時の目標（本時 2 / 4）
アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を「生産の工夫」，「経営の工夫」の視点から考察する。

展開

学習過程	学習活動 ◎・予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
復習 2分	1 前時の学習を想起し，単元の学習課題を確認する。	・前時の学習内容について問う。
課題把握 14分	2 課題意識をもつ。 ・アメリカ合衆国の農業地帯の様子を概観する。 ・主な農産物の統計資料からアメリカ合衆国が世界有数の農産物の生産国であり，輸出国であることを読み取る。 3 学習課題を設定する。 アメリカ合衆国は，なぜ世界有数の農産物の生産国であり，輸出国に成長できたのか。	・「宇宙から捉えたえたアメリカ合衆国の農業地帯」の写真資料を提示し，スケールの大きさを実感させる。 ※「グレートプレーンズの円形農場」，「フィードロット」の写真資料を提示 ・「小麦」，「とうもろこし」，「大豆」，「牛肉」生産量（前時に提示済）と輸出量上位国の統計資料を提示する。 ・「小麦」については，生産量の約3割を輸出していることを確認し，輸出を目的とした生産活動を行っていることを実感させる。
	4 学習課題に対して予想し，解決の見通しを持つ。 ◎ 気候が農作物栽培に適している，農地が広い，労働力が多い，等	・単元の学習課題設定時に考えも想起しながら，改めて解決の見通しをもたせる。 ・生徒の予想をもとに，追究の視点を「栽培面の特徴」，「経営面の特徴」とする。
課題追究 24分	5 アメリカ合衆国の農業について「栽培面の特徴」，「経営面の特徴」の2の視点で追究する。 (1) 栽培面，経営面の特徴である2語を調べ学習シートに記述する。 (2) 「適地適作」，「企業的な農業」とは何か理解する。 ・それぞれを説明している学習シート空欄をうめる。 (3) 「適地適作」，「企業的な農業」の具体的な様子について学習シートに調べまとめる。	・学習シート作業後，全体に問いかけ，各自に声に出して答えさせる。

	<p>① (2) のペア分担で調べまとめる。</p> <p>② 同じ担当をしたペア(座席が前後)で調べた内容を確認しながら説明し合う。</p> <p>③ 隣同士のペアで調べた内容を説明し合う。</p> <p>(4) 「適地適作」, 「企業的な農業」はどのような利点があるのか考察し, 学習シートにまとめる。</p> <p>① (2) のペア分担で調べまとめる</p> <p>② 隣同士のペアで調べた内容を説明し合う。</p> <p>③ 全体で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当しなかった内容についてもペアの説明を基に理解する。 ・「適地適作」については, そうでない栽培方法と比較して, 「企業的な農業」については, 小規模で大型機械を用いない経営方法と比較して等, 視点を確認してから, 考察させる。
<p>課題解決 12分</p>	<p>6 学習課題を解決し, 学習を振り返る。 「適地適作」, 「企業的な農業」の二つの語句を使って, アメリカ合衆国の農業の特徴について説明文をつくる。</p> <p>(まとめ) アメリカ合衆国が世界有数の農産物の生産国, 輸出国に発展することができた理由は, (「適地適作」により, 自然環境に最も適した農産物を栽培することで質がよいものをより多く生産できること。また, 「企業的な農業」により, 大規模農場で大型機械を用い, 値段の安い農作物を大量生産できることがあげられる。)</p> <p>7 次時の見通しをもつ。</p>	<p>【評価規準】(思考・判断・表現) アメリカ合衆国が世界有数の農産物の生産国, 輸出国に発展できた理由について考察し, 説明している。(学習シートの記述)</p> <p><Aの視点> ・適地適作と企業的な農業の利点を関連させて考察し, 説明している。</p> <p><Cの手立て> ・日本と比較する視点をもたせる。</p>

(2) 授業実践後の捉え

以下に生徒の授業後の振り返り記述を掲載する。なお、この記述は上記単元の4単位時間分のものである。4単位時間のうち、1, 2時は研究担当者が、3, 4は研究協力員が実施した。

【生徒の振り返り（各授業時間のまとめ・単元のまとめ）記述から（学習シートの記述）】

○「主体的な学び」の実現に関わる振り返り記述（感想部分）

〔第1時〕単元の学習課題を設定し、解決の見通しをもつ場面

〔第4時〕単元の学習課題について、振り返る場面

- ・学習のはじめでは、アメリカは面積が広く、人口も多いため工業、農業ともに世界有数の生産が可能なのだと思っていました。学習してみて、自然や資源に恵まれていることや移民の労働力によって成り立っていることがわかりました。
- ・アメリカでは、その場所の気候に合わせて農業を行っているのに、なぜ、日本では、その場の気候にあっているとはいえない農産物の生産も行っているのか疑問に思いました。
- ・なぜ、アメリカ産の牛肉や野菜が安く手に入るのかがわかった。その他の輸入品についても調べてみたい。
- ・アメリカの文化に興味をもちました。もっとくわしく知りたいです。
- ・アメリカの大統領がトランプさんになったので、移民の人たちがどうになってしまうのか興味をもった。
- ・アメリカの農業や工業について、もっとくわしく調べてみたい。
- ・自分で北アメリカについてまとめられたと思うし、「なぜ？」という疑問を解決できたと思うので、これからもがんばりたい。
- ・アメリカは今の世の中の産業になくてはならない存在だと思った。アメリカの大統領が変わったら、今までのアメリカと何が変わっていくのか注目していきたい。
- ・学習課題について文章にしたりして、自分たちで考えをまとめる授業をするのはいいことだと思った。
- ・知らなかったことについて、自分たちで解決できてよかった。
- ・アメリカについて色々なことがわかった。しかも分かりやすかった。
- ・自分の考えをまとめる活動が難しかった。次回はもっとしっかりまとめられるようにがんばりたい。
- ・面積も人口も世界一でないのに、農業も工業も世界有数の生産が可能なのか不思議でしたが、理由が分かりよかったです。

○「対話的な学び」の実現に関わる振り返り記述（感想部分）

〔第1～4時〕ペア相手などと理解や考えを伝え合う場面

○「深い学び」の実現に関わる振り返り記述（感想部分）

〔第1～4時〕ペア相手などと理解や考えを伝え合う場面学習課題の解決に関わって、自力で調べた内容を基に、自分なりに理解や考えをまとめたり、説明したりする場面

- ・資料からアメリカの農業の様子についてグループで協力しながら読み取って、楽しみながら学べて楽しかったし、よく分かった。
- ・教科書で調べたり、グループの人と話し合ったりすることが楽しかったです。わからないところを教えてもらうことができてよかった。
- ・調べたことについて、お互いに説明し合う活動は理解が深まっていいと思いました。

- ・「となりの人に説明する」活動はあまり得意ではない。
- ・学習のまとめなどをしっかりと自分なりにまとめて書くことが出来たのでよかった。
- ・他の人に説明することで理解が深まったような気がして良かったです。
- ・学習したことを，となりの人に教えることによって自分でも「だいたい理解できたかな」という実感をもつことができた。
- ・自分で理解したことをまとめることで，きちんと覚えられたと思う。
- ・農業や工業で世界有数の生産量をほこっている理由がわかった。
- ・アメリカは多くの人が集まりで出来ている国なのに，それぞれが自分の役割を果たしているすごいと思った。

【授業者（研究担当者・研究協力員）の観察から】

○「主体的な学び」の実現に関わる観察

- ・単元の導入にあたる時間において，必要な知識についての取り扱いと単元を通した課題意識の醸成，課題意識を基にした学習の見通しを持つ学習活動をバランスよく取り入れることに時間的な難しさを強く感じた。
- ・ともすると見通しと振り返りの記述・交流ありきの学習活動に陥り，定着を図るべき基礎・基本的な知識や技能の定着のための学習活動が十分確保できないことが危惧された。

○「対話的な学び」に関わる観察

- ・十分な動機付けと解決の方向性をより明確にした学習場面の設定が必要である。
- ・話し合いの進め方について，国語科等における学習の成果を生かしつつ，指導を継続・発展させていく必要がある。

○「深い学び」に関わる観察

- ・各時間に「社会的な見方・考え方」を用いた考察，構想，説明，議論等の学習を組み込んで構想したが，目指す学習活動に至らない場面も生じた。単元を見通した学習の中で，思考，判断，表現する学習活動（個人⇒集団⇒個人）を精選して組み入れることで十分な学習時間を保証し，内容の充実を図ることが必要である。

2 高等学校における授業実践

(1) 育成を目指す資質・能力の設定と共有について

研究協力校である岩手県立岩泉高等学校での授業実践に先んじて、研究構想図の①に則り、下のように目標を設定し、単元や授業をデザインした。

ア 育成すべき資質・能力の三つの柱

- ・「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- ・「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- ・「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

イ 岩泉高等学校の教育目標

- ・将来の国家及び社会の形成者としての高い学力と教養を身に付け、責任と義務を自覚し、新しい価値を創造して広く社会に貢献できるたくましい人物を育成する。
- ・日本の文化と伝統を継承し慈しむ態度及び豊かに生きるための情操を育む。
- ・校訓「立志 邁進 才知 共生」を実践する教育を行う。

ウ 岩泉高等学校が目指す学校像

生徒一人ひとりの持つ個性や能力の伸長を図り、高い志を持って21世紀を切り拓く人物を育てる。そのために、教職員が協働して生徒に感動と自己の変化を実感できる教育実践を通し「地域を支え、地域に支えられる」学校作りを展開する。

- ・文武両道に励み礼節と勤労を尊ぶ校風を継承・発展させる。
- ・社会の一翼を担う覚悟と自己実現のための努力を惜しまない人間を育成する。
- ・国際的な視野に立ち、地域の文化・伝統を愛し、地域社会に貢献できる人間を育成する。
- ・地域と小・中学校からの信頼と期待に応え、地域に開かれた学校作りを推進する。
- ・教職員の研修を充実させ、指導力のある教職員集団をもって組織的に生徒の育成に当たる。

エ これらを受けて岩泉高等学校が学校全体として育成すべき資質・能力（仮）

以上を受けて、岩泉高等学校が学校全体として組織的に育成すべき力を具体化（仮）する。

○これからの社会や地域を発展的に担うために

- ・新しい価値を共に創造していく力
- ・新しい価値を共に提案していく力
- ・新しい価値を共に実践していく力

※以上の提示はあくまでも研究による方法論であり、実際には岩泉高等学校での議論により作成されるものであり、来年度の取り組みに期待するものである。

オ 高等学校地理歴史科、公民科が目指すもの（目標）

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

※目標にある公民としての資質・能力の基礎は、次の三つの柱に描かれる資質・能力の全てが結び付いていくことで育まれるものである。（「答申」より）

○地理歴史，公民で獲得する知識・技能

- ・社会的事象等に関する知識
- ・社会的事象等に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能

○地理歴史，公民で養う思考力・判断力・表現力等

【思考力・判断力】

- ・社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力
- ・社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想（選択・判断）する力

【表現力】

- ・考察したことや構想したことを説明する力
- ・考察したことや構想したことを基に議論する力

○地理歴史，公民で養われる学びに向かう力・人間性等

- ・主体的に学習に取り組む態度
- ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等

カ 地歴・公民の授業を通してつけさせたい資質・能力の具体化

上記エに才をアプローチさせることで，地理歴史，公民の授業において岩泉高等学校の生徒に身に付けさせるべき力を以下のように考える。

○「課題を発見し解決する力」

- ・課題を把握し，社会や地域の多面的・多角的に考察する力
- ・課題解決に向けて構想する力
- ・課題解決に向けて提案・実践する力

キ 単元の「基軸となる問い」について

上記カを受けて，この単元では「基軸となる課題」として「よりよく生きるために，自分はどうあれば良いのか」を設定し，自己理解と将来への展望を考えさせ，地理歴史，公民の授業において岩泉高等学校の生徒に身に付けさせるべき力にアクセスしていくものである。そのため，単位時間毎の課題も「基軸となる課題」をベースにし，段階を踏んで各単位時間に「基軸となる課題」に迫ろうとするものである。

- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善
研究協力校である岩手県立岩泉高等学校での授業実践について、単元の計画及び1単位時間の
実践（研究担当者分）について掲載する。

第1学年 現代社会 学習指導案

日 時 平成28年11月18日

H R 岩手県立岩泉高等学校1年B組

男子12名 女子12名 合計24名

授業者 研究担当者

ア 単元の計画

<p>1 単元名 第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期の自己形成の課題 2 よりよく生きることを求めて</p>
<p>2 単元の目標および単元で働く「見方・考え方」</p> <p>(1) 単元の目標</p> <p>ア よりよく生きることを追究した先哲の基本的な考えを理解し、適切にまとめることができる。(知・理)</p> <p>イ よりよく生きることを追究した先哲の基本的な考えを理解し、適切に表現することができる。(思・判・表)</p> <p>ウ よりよく生きることを追究した先哲の基本的な考えを理解し、青年期に生きる自己形成の課題を意欲的に追究しようとしている。(主)</p> <p>(2) 単元で働く「見方・考え方」</p> <p>青年期に生きる自己形成の課題を、倫理、哲学、宗教等に関わる多様な視点に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付ける。(高等学校公民 倫理(仮称))</p>
<p>3 単元について</p> <p>(1) 教材について</p> <p>使用教科書で、中項目「青年期の自己形成の課題」は、「1 現代社会と青年の生き方」、「2 よりよく生きることを求めて」から構成され、2の小項目を「内容のまとめり」として単元と捉える。この単元は、哲学、宗教、科学、思想、伝統等から構成される。</p> <p>内容量が豊富かつ多岐に渡るため、羅列的・網羅的になりがちな分野であるが、上記単元の目標に即し、「先哲の基本的な考えを理解」することを主眼とし、さらにそれを自己形成の糧にできるよう授業をデザインする。なお、その際に前の小項目である「1 現代社会と青年の生き方」と有機的に関連させながら進めることで、学びを社会や人生に生かそうとする態度を涵養する。</p> <p>(2) 生徒について (略)</p> <p>(3) 指導にあたって</p> <p>地理歴史、公民の授業において岩泉高等学校の生徒に身に付けさせるべき力として、次のとおり設定した。</p>

「課題を発見し解決する力」

- ・ 課題を把握し、社会や地域の多面的・多角的に考察する力
- ・ 課題解決に向けて構想する力
- ・ 課題解決に向けて提案・実践する力

これを受けてこの単元では「基軸となる課題」として「よりよく生きるために、自分はどうあれば良いのか」を設定し、上記3つの力の根底をなす自己理解と将来への展望を考えさせ、アプローチしていくものである。そのため、単位時間毎の課題も「基軸となる課題」をベースにしなが、段階を踏んで迫ろうとするものであり、毎単位時間に「基軸となる問い」を振り返ることで、自らの成長や変容の確認をする。

4 単元の評価規準

社会的事象についての 知識・技能	社会的事象等についての 思考・判断・表現	社会的事象に主体的に関わろ うとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 先哲の思想について、その概念を理解し、基本的な知識を身に付けている。 ・ 先哲の思想について資料を読み取り、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先哲の思想について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、説明している。 ・ 先哲の思想について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、議論している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先哲の思想を自己形成の課題に生かそうとしている。 ・ 自己を客観視し「よりよく生きるために自分はどうあれば良いのか」を意欲的に追究している。

5 単元の指導と評価の計画

単元名 よりよく生きることを求めて
基軸となる課題 「よりよく生きるために、自分はどうあれば良いのか」

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1	<p>哲学と人間 課題：「ただ生きるのと『よく生きる』はどのように違うのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジグソー法により、ギリシア思想と中国の思想を読み取り、他者に伝える。 ・ 共通点を考察し、一般化し、パスカルに繋ぐ。 ・ この一連の流れから「よく生きる」の意味を考察し、学習課題をおよび基軸となる課題を振り返る。 	<p>【評価規準B】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先哲の思想について、その概念を理解し、基本的な知識を身に付けている。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先哲の思想について、その概念を自己形成に関連付けて理解している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教え合いの充実を図る。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習プリントの記述内容

<p>2 本 時</p>	<p>宗教と人間</p> <p>「なぜ世界宗教が成立したのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大宗教の人間観について読み取り，他者に伝える。 ・三大宗教の人間観の共通点を抽出し，民族宗教と比較しながら世界宗教として成立した要因を考察し，学習課題を振り返る。 ・自分の宗教心についての省察を通して単元の基軸となる課題について考察する。 	<p>【評価規準 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大宗教の人間観について多様な視点に着目して捉え，その意味や意義，関連などを考察し，説明している。(思・判・表) ・自己を客観視し「よりよく生きるために自分はどうあれば良いのか」を意欲的に追究している。(主) <p>【A の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大宗教の人間観について多様な視点に着目して捉え，その意味や意義，関連などを考察し，具体例を示しながら説明している。 ・自己を客観視し「よりよく生きるために自分はどうあれば良いのか」を意欲的に追究し，他者との関係に生かそうとしている。 <p>【C の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いの充実を図る。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
<p>3</p>	<p>近代科学の考え方</p> <p>「近代科学の考え方はその後の歴史をどう変えたのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の思考方法について考察し，歴史的背景をまとめる。 ・「帰納法」と「演繹法」について理解し，合理的思考の手法として思考実験する。 ・合理的思考が生きている例を考察し，学習課題を振り返る。 ・自分自身の意識の変容について考察し，基軸となる問いについて考察する。 	<p>【評価規準 B】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰納法と演繹法について，その概念を理解し，基本的な知識を身に付けている。 <p>【A の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰納法と演繹法について，その概念を理解し，基本的な知識を身に付け，事象を説明できる技能を身に付けている。 <p>【C の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いの充実を図る。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
<p>4</p>	<p>人間の尊厳</p> <p>「個人と社会はどうかかわるべきか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の道徳的法則からカントの思想を考察する。 ・弁証法から社会と人間の関わりについて考察する。 	<p>【評価規準 B】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想(道徳法則)について多様な視点に着目して捉え，その意味や意義，関連などを考察し，説明している。 <p>【A の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想(道徳法則)について多様な視点に着目して捉え，その意味や意義，関連など

	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技により先哲の考えに触れ、社会の中での自己の在り方を考え、学習課題を振り返る。 ・自分自身の意識の変容について考察し、基軸となる問いについて考察する。 	<p>を考察し、これからの自己がどのように社会に関わるべきかを示しながら説明している。</p> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
5	<p>人間性の回復を求めて</p> <p>「合理主義に問題はないのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理主義の問題点を社会背景に照らして問題点を考察する。 ・批判的思考により社会主義や実存主義を考察する。 ・役割演技により、現代のヒューマニズムを考察し、学習課題を振り返る ・自分自身の意識の変容について考察し、基軸となる問いについて考察する。 	<p>【評価規準B】(主)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想(批判的思考)を自己形成の課題に生かそうとしている。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想(批判的思考)を自己形成の課題や社会の課題に発展的に生かそうとしている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
6	<p>日本の伝統思想の考え方</p> <p>「われわれの生き方や考え方に、日本の伝統思想はどのような影響をあたえているだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象から伝統的思考の例を考える。 ・仏教伝来以前の思想が考え方に影響を与えている例を考察する。 ・仏教伝来以降の思想が考え方に影響を与えている例を考察する。 ・日本文化の重層構造を考察し、学習課題を振り返る。 ・自分自身の意識の変容について考察し、基軸となる問いについて考察する。 	<p>【評価規準B】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統思想について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、説明している。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統思想について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、自己形成に関連づけて創造的に説明している。説明している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る。 ・事例提示の工夫 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
7	<p>外来思想の受容と日本人の自覚</p> <p>「外来思想と伝統思想はなぜ共存しているのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儒教と国学の例を考察する。 ・西洋思想と伝統思想の例を考察する。 	<p>【評価規準B】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来思想と伝統思考の共存について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、説明している。 <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来思想と伝統思考の共存について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連な

	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技により、内容を確認しながら、学習課題を振り返り、今後求められる思想形成を考える。 ・自分自身の意識の変容について考察し、基軸となる問いについて考察する。 	<p>どを考察し、自己形成に関連付けて創造的に説明している。</p> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る。 ・事例提示の工夫 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
8	<p>まとめ</p> <p>「よりよく生きるために、自分はどうあればいいのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を基に、単元の基軸となる課題について、考察しレポート化する。 	<p>【評価規準B】(主)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を客観視し「よりよく生きるために自分はどうあればいいのか」を意欲的に追究している。(主) <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を客観視し「よりよく生きるために自分はどうあればいいのか」を社会事象(等)との関わりの中で、意欲的に追究している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る ・事例提示の工夫 ・チームティーチングの導入 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発表

イ 実践授業

本時の目標 (本時 2 / 8)
<p>① 三大宗教の持つ普遍的な人間観を考察できる。</p> <p>② よりよく生きるために、自分はどうあればいいのかについて考えを深めている。</p>

① 展開前半

学習過程	学習活動	指導上の留意点
	<p>◎ 予想される生徒の反応</p>	<p>評価</p>
<p>課題把握 (5)</p>	<p>1 課題意識を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「宗教心」について考える。 ◎宗教心はほとんどない ・三大宗教を確認し、その分布状況を教科書資料から読み取る。 ・民族宗教と比較しながら学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思表示カードにより授業への積極参加を促し、後半への布石ともする。 ・読み取った事象を表現させる。 ・身近な神社等と比較させる。
	<p>なぜ世界宗教が成立したのか</p>	

<p>課題 追究 1 (20)</p>	<p>2 仏教</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を読み取り，その人間観を「ブッダが言いたかったこと」としてまとめる。 用語は精選されたものをプリントに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> T1 が説明し，T2 が傾聴し返すという方法を演示し，次の模範を示す。 用語の羅列ではなく，本質に触れる視点を持たせるよう教材を適正化する。
<p>課題 追究 1 (20)</p>	<p>3 キリスト教</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を読み取り，その人間観を「イエスが言いたかったこと」としてまとめる。 ペアによる説明と傾聴・返し。役割演技を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語の羅列ではなく，本質に触れる視点を持たせるよう教材を適正化する T1, T2, T3 が適宜巡回し，生徒をサポートする。 ディシーズについては T1 による説明と鑑賞により関心を深める。 隣人愛については補足説明が必要。
<p>課題 追究 1 (20)</p>	<p>4 イスラム教</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を読み取り，その人間観を「ムハンマドが言いたかったこと」としてまとめる。 ペアによる説明と傾聴・返し。役割演技を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 肖像の空白から偶像崇拝を説明し，理解と関心を深める。「預」の意味や，「喜捨」「断食」なども同様とする。 用語の羅列ではなく，本質に触れる視点を持たせるよう教材を適正化する T1, T2, T3 が適宜巡回し，生徒をサポートする。
<p>課題 解決 (10)</p>	<p>5 課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 民族宗教の特色を教科書から読み取り，記述する。 三大宗教の持つ人間観の普遍性について議論する。 上記の結果をプリントにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 世界宗教が成立する理由を民族宗教（神道，ヒンドゥー教，ユダヤ教）と比較させたいうで記述させる。 <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>【評価規準】(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三大宗教の人間観について多様な視点に着目して捉え，その意味や意義，関連などを考察し，説明している。(プリントの記述) </div>

② 展開後半

学習 過程	学習活動 ◎予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価
課題 追究 2 (10)	<p>6-1 自分の宗教心について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入を受けて課題追究後の自らのおよび他者の変容を確認する。 <p>◎思考や判断の揺らぎと整理 ◎人間の持つ普遍的な宗教心に気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> 三大宗教における人間観の普遍性を考え、自分のものとして把握する。 「基軸となる問い：よりよく生きるために、自分はどうかあれば良いのか」について考察し、プリントにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 普遍性を個人へ落とし込むことで、基軸となる問いと有機的に関連させる。 思考を「揺らす」発問に対して、意思表示カードにより授業への積極参加を促す。 「二択誘導」による誘導で着地点に誘導する。 宗教学習後の視座の変化を誘う。
課題 解決 2 (5)	<p>6-2 「基軸となる問い：よりよく生きるために、自分はどうかあれば良いのか」について考察し、プリントにまとめる。(家庭学習課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時及び本時の成果として、現時点での「基軸となる問い」を考察させる。 <p>【評価規準】(主体的に関わろうとする態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先哲の思想(三大宗教の人間観)を自己形成の課題に生かそうとしている。(プリントの記述)

(3) 実践後の捉え

ア 生徒の振り返り記述

(7) 質問紙による振り返り

質問紙 リード文

今回の授業では、生徒同士や先生の対話、教科書の精読（先人や資料との対話）、自分の心を振り返る（自分との対話）などの場面を多く取り入れる、「対話的な授業」を目指しました。

【主体的な学び】

1 あなたはこの授業に主体的に参加できましたか？ (N=24)

ア できた	11名
イ だいたいできた	13名
ウ あまりできなかった	0名
エ できなかった	0名

【深い学び】

1 あなたはこの授業で自分の考えを深める事ができましたか？ (N=24)

ア できた	10名
イ だいたいできた	14名
ウ あまりできなかった	0名
エ できなかった	0名

(4) 自由記述による振り返り

単元の1時間目ではギリシア哲学、中国の古代思想を学び、そこでの問いである「ソクラテスの「よく生きる」とはどんなことだろうか？具体的な生き方を考えてみよう？」の質問に生徒は回答している。2時間目（本時）では自らの宗教心（人間として普遍的に持っている宗教心）に気付くことにより、それ以前とは単元の「基軸となる問い」へのアプローチが異なるものと考えられ、この記述の変化から生徒の学びの深まりを検証したい。A～Jの記号は同一生徒である。追跡できた全生徒分を掲載する。

【第1時間目】(○で示す)

※ここで履修したのは「無知の知」「知への愛」「なんじ自身を知れ」などのソクラテスを中心としたギリシア哲学である。単元の構成上「内省」が主題となっている。

プリント（振り返りシート）の問い

- ・「ソクラテスの『よく生きる』とはどんなことだろうか？具体的な生き方を考えてみよう」

【第2時間目】 ※本時 (◎で示す)

プリント（振り返りシート）の問い

- ・「よりよく生きるために、自分はどうあるべきか」

生徒A

- 自分のやりたいことをやって自由に生きること
- ◎他人のことも思いやっていたら良いと思った

生徒 B

- 死ぬときにいい人生だったと思って死ねたらよく生きた
- ◎他人を助けるようにする

生徒 C

- 仕事とかもこなしながら自分の生きがいになることを見つけ実行する。
- ◎普段の生活を充実させながら自分の生きがいを見つけ、さらに人の役にたてるような仕事に就く。人とのコミュニケーションを大切にする。人の心を知る。

生徒 D

- 自分の好きなことを好きなように楽しんで生きる。“※我慢も必要か？” よく寝てよく食べてよく遊んで、よい人間関係を築きあげる。
- ◎自分を客観的にみて、行動をよく考える。人生は“諸行無常”だ。

生徒 E

- いつも通り朝が来て友達や家族と過ごせること。楽しんで暮らせること。
- ◎人がいればその分だけ、いろんな考え方や宗教があるから、その人たちの考えを否定せず、理解すること。

生徒 F

- 3食食べれる。家族や友達といれる。いろんなことを経験できる。仕事しながら自分の「生きがい」になることを見つけて実行する。生きていく中で、いろいろなことを知り、学び、生きる糧を養っていく。
- ◎自分ができるとは自分でやり、もしできないことが見つければ周りの人に助けを求め、あるいは助けてあげながら生きる。

生徒 G

- 生きていく中で、いろいろなことを知り、学び、生きる糧を養っていくこと。
- ◎過去の反省を生かし、今の自分がどうしたいのか、何をしたらいいのかを考えて行動に移す。

生徒 H

- 人の役に立つことをし、そこから考え、学んでいく。
- ◎無差別、無償で愛をあげられるようにする。困っている人に手をさしのべられるようにする。

生徒 I

- 人の役に立つことをし、そこから考え、学んでいく。
- ◎無差別、無償で愛をあげられるようにする。困っている人に手をさしのべられるようにする。

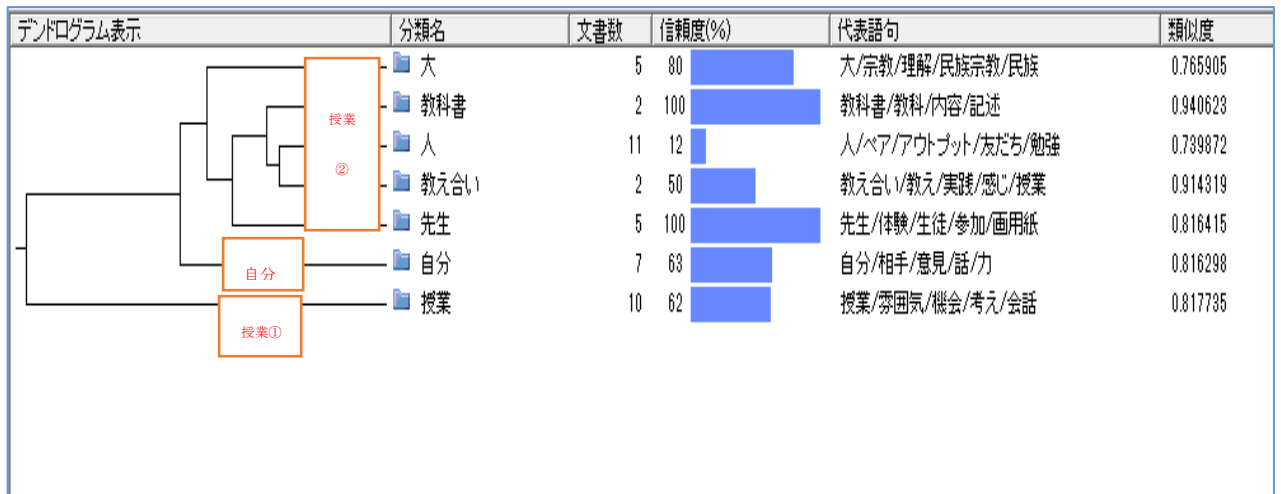
生徒 J

- 自分のやりたい仕事をやっていると学んで、やりたい仕事でやりがいを感じ満足できるまで、できること。
- ◎いろんな人がいれば、いろんな考えがあったり、宗教があるので、その人たちの考えを否定せず、理解すること。

生徒 K

- やりたいことをやっていること。毎日くり返しやっていることを続けていること。
- ◎いろんな人がいれば、いろんな考えがあったり、宗教があるので、その人たちの考えを否定せず、理解すること。(生徒 J と同じ記述)

(ウ) 生徒アンケートの自由記述より（テキストマイニングによる分析）



【図5】デンドログラム表示※ JustSystem「TRUSTIA」使用

【図5】では上記を主題分類し、第3階層で「授業①」「自分」「方法②」と命名し、主題分類した。「授業①」主題では雰囲気という標記に代表されるように、授業そのものの空気感を捉えた記述が目立つ。本研究のガイドブックのP13、ポイント3の「指導限の工夫」で取り上げている。

「互いの考えを安心して表現できる「雰囲気づくり」に努める」が極めて有効に機能したことが読み取れる。教室が安心安全の場であることは、アクティブ・ラーニングのみならず授業において不可欠な条件であろう。

続いて「自分」主題では、自分と他者を意識した表現が占める。これもガイドブック P14 で示した「学習形態・手法の工夫」の「話し合いを機能させる」が有効に機能していたことを示唆している。

「授業②」主題でも、「個別の知識」よりも方法としてのアクティブ・ラーニングに関する記述が多く、授業への生徒たちは斬新さを感じる中で参加感や充実感も得ていた模様である。

「授業」から「学習」へのパラダイムシフトを示唆しており、それを生徒も好意的に受け入れていると判断できる。

イ 参観者の観察から（抜粋：参考）

- ・途中までしか参観できませんでしたが、指名されて回答したことにより自分も授業に参加している意識になりました。生徒も普段より生き生きと活動しているように見えました。

※授業内容に関してのアドバイスを求めるために参観者に指名したもの

- ・先生の授業のエッセンスを取り入れ、他のクラスで同じ内容をやってみました。結果だけを申し上げますと、生き生きした様子が見られるようになりました。手応えを感じる場所もありますので、課題解決学習になるような授業を心がけていきたいと思えます。
- ・課題解決の重要性をあらためて認識しました。ALは生徒の学習意欲、やる気を向上させる一種の魔法のようなものだと思います。ただ、効力がある分、しっかりとした授業観を持ちながら授業を構築していくべきだとも感じました。

- ・生徒が主体的に活動していて楽しそうな授業でした。相手に説明することで三つの宗教の特徴を理解できたとし、その理解を手掛かりに民族宗教との違いを生徒が自分で導き出している場面は、生徒自身にとって手応えがあったと思いました。
- ・「間違えても良い」「今、分からなくても授業後に分かるようになれば良い」という一貫したメッセージを送り続けることで、生徒が堂々と発表できる雰囲気を作っていた点が素晴らしいと感じました。

ウ 授業者の観察から（主に意志表示カードの観察より）

単元の「基軸となる問い」として「よく生きるために、自分はどうあるべきか」を設定し、本時の学習課題は「なぜ、世界宗教は成立したのか」とした。一見、この二つの学習課題には乖離があるように思われるが、本時の授業は世界宗教の成立を考えるプロセスで、仏教、キリスト教、イスラム教の人間観を考えていけるようにデザインした。その結果、授業冒頭での「君に宗教心はあるのか」という問いを授業後半で再度問うシーンでは、意思表示カードによる集計では下記のとおりであり、明らかな変容が認められた。

授業冒頭 君に宗教心はあるか？ Yes 5名 No 19名

授業後半 君に宗教心はあるか？ Yes 23名 No 1名

3 理論実践のための留意点

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を念頭に、単元を構想し授業実践を行ってきた。これらを通して得られた留意点を以下に示す。なお、この留意点に関しての詳細および具体的な方法については本稿の補助資料である「ガイドブック（中間報告）」に「〈5つのポイント〉によるアプローチ」として記載している。

・ポイント1 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す「課題解決的な学習」の展開

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は学びの過程を通して一体として実現されるものであり、また、1単位時間の授業の中で全てが実現されるものでもない。したがって、単元や内容のまとまりを通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意図した構成の工夫が望まれる。この際に重要となるのが本質的な「単元の基軸となる問い」である。また、1単位時間においても「課題把握」「課題追究」「課題解決」の一連の流れの中で、知識、概念や技能を習得して思考・判断・表現しながら課題を解決していく「課題解決的な学習」が、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現のための大きなポイントである。

・ポイント2 「社会的な見方・考え方」を働かせた学びの重視

「社会的な見方・考え方」とは社会事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であり、前掲のとおり、各校種および科目・分野ごとに細分化されている。この「見方・考え方」が知識・技能の活用と思考力・判断力・表現力等の獲得・習熟を駆動させるツールとなる。この「見方・考え方」が「問い」を立てるための視点であり、この視点を生かした「本質的な問い」が、有効な「課題解決的な学習」を成立させる。

・ポイント3 「指導言」（説明・指示・発問・助言）等の工夫

上記のポイント1, 2を実際に効果的に機能させるために不可欠であるのが「指導言」である。ポイント1, 2を有機的に連結させ生命を吹き込むのが「指導言」である。これを端的に表

現すると「授業をコントロールする力」となる。授業をコントロールするためには、生徒の共感を生み出す、クリアで「分かりやすい説明」、学習活動を促す「的確な指示」、考える視点を与える「意図的な発問」、状況に応じた「適切な説明」が不可欠である。特に社会科、地理歴史科、公民科においてはその教科の特色からもこの「指導言」の工夫が重要である。

なお、このポイント3については、研究協力員からもその難しさを指摘する声があるが、その対策としての文章化も難しい部分である。授業の互見や提案授業の参観等を通して学び合うのも有効な手段である。

・ポイント4 「学習形態・手法」の工夫

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善のためには教員一人一人が学習の場面に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践していく必要がある。学力の三要素のうち、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」および「主体的に学習に取り組む態度」について、溝上（2015）は「アクティブ・ラーニング以外でどうやって育てると言うのか」と提起している。

学習形態・手法としてその有効性が確認されているのが、生徒同士の「話し合い」や「教え合い」である。対話や議論を通して理解したことや考えを相互に伝え合うことで自己の理解や考えもより深められると同時に、多様な他者と協働していくことができる人間への成長も期待できる。社会科、地理歴史科、公民科で有効な「学習形態・手法」の詳細については、本稿の補助資料の「ガイドブック（中間報告）」で示しているが、重要なのはこの「学習形態・手法」について、教員一人一人が学習の場面に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践していくことであり、「なぜ、それをやるのか」を常に自らに問い続けていくことであろう。アクティブ・ラーニングの形式化が指摘されるのも主にこの部分であり、特に留意すべきポイントである。

・ポイント5 「主体的・対話的で深い学び」の充実度を評価する

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善には「学習評価」の改善も伴う。「主体的・対話的で深い学び」は、学習者の多様なパフォーマンスを引き出す学習であり、知識量等の量的な面のみでなく、育成された資質・能力の深まりという質的な面からの評価も求められる。この評価は生徒の学意意欲を高めるものであると同時に、教員が生徒の学習成果を把握し、その指導の改善を図るためのものでもある。

学習評価では「指導と評価の一体化」のもと、「三つの観点」で評価していくものであり、目標に準拠した評価を実質化していくことや校種を越えた共通理解に基づく組織的な取り組みが必要である。社会科、地理歴史科、公民科における評価の三観点はすでに述べた通りであり、この評価の方法についても補助資料「ガイドブック（中間報告）」に多様な例を掲載している。

Ⅷ 成果と課題

本研究は2年研究であり、1年目の本年度は研究理論の構築を目的として取り組んだ。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善はどうかであれば良いのかについて、今年度は授業実践との往還を通して、「答申」に基づいた理論化を図った。その結果、各教科で来年度の本格実践および検証に向けての理論を構築し、単元の指導案などのモデルを示す事ができた。

この理論化のプロセスで得られた教科レベルでの成果や課題点を下記に示す。

1 研究の成果

(中学校)

- ・資質・能力の育成と学習内容の定着の両立を図ろうとする次期学習指導要領改訂が目指す中学校社会科における授業づくりの視点に基づいた授業づくりについて理論構築ができた。来年度への実践・検証が期待される。
- ・1単元の授業を構想、実践できた。
- ・「ガイドブック（中間報告）」により、研究主題に沿った授業づくりガイドを提案できた。

(高等学校)

- ・資質・能力の育成と学習内容の定着の両立を図ろうとする次期学習指導要領改訂が目指す高等学校地理歴史科・公民科における授業づくりの視点に基づき1単元の授業を構想、1単位時間の授業が実践でき、その単元モデルを作成することができた。
- ・アクティブ・ラーニングの視点の一つである、「対話的な学び」を基に設計したがこれが「主体的学び」「深い学び」に十二分に結び付くものであることが立証できた。今後、応用が期待される。なお、この三つは相互に深く関連しており、切り離して考えるものではないものであることを付記する。
- ・手法としての「課題解決型」も高等学校においても有用である。
- ・単元（内容のまとめ）の基軸となる問いの設定は極めて有用である。

2 課題

(中学校)

- ・目指す授業づくりに向け、生徒の実態を的確に捉えて、スモールステップで実践を重ねていくことが必要である。
- ・評価の場面が単元及び各時間の導入と振り返りの場面における記述内容が中心となった。記述する活動のみでは生徒の理解状況の把握は難しいものとする。継続して実践を進める必要がある。
- ・目指す授業づくりにあたっては、本研究の総論で掲げているように、年度当初に教科の枠を越えて、校内で目指す生徒像を共有し、授業実践に取り組んでいくことが効果的なアプローチになるものとする。

(高等学校)

- ・資質・能力の育成と学習内容の定着の両立を図ろうとする次期学習指導要領改訂が目指す高等学校地理歴史/公民科における授業づくりの視点に基づいた授業づくりについて、答申等に拠った理論構築ができた。来年度への実践・検証が期待される。

- ・振り返りシートの記述に男女差が確認できた。女子生徒の方が充実した記述内容であったが、授業アンケートの選択回答や自由記述には内容的な男女差は感じられないため、これは思考の深浅によるものではないと考える。男子への表現のさせ方に工夫が必要と考える。
- ・さらに授業では、T1, T3 に生徒のサポートに関わってもらった。参観の教員からのコメントもその効果についてふれており、チームティーチングの新たな可能性も見いだせた。今後の研究が待たれる。
- ・来年度は該当高校において、地理歴史科、公民科の目標や学校目標等を考慮の上、岩泉高等学校の地理歴史科、公民科の授業において岩泉高等学校の生徒に身に付けさせるべき力を明確に設定の上、今回示した単元モデルに則った授業実践およびその報告を求めたい。研究協力員についても同様である。次年度から研究協力員・研究協力校での本格実践を経て総合的な検証にかかりたい

3 来年度に向けて

完成年度である来年度は、今回構築した理論および単元の指導案等に則った実践に入る。来年度は研究協力校および研究協力員、研究担当者による単元レベルでの実践を予定しており、その中で得られた知見やデータの分析・検証を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通しての資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方について、報告書並びにガイドブック、あるいは研究発表会、提案授業等を通して広く提案していく予定である。

〈おわりに〉

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒のみなさんに心からお礼申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

IX 参考文献

【引用】

- ・中央教育審議会（2016），『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 pp132-139，別添資料 3-4～3-6
- ・中央教育審議会（2016），『学習評価に関する資料』 p29

【参考文献】

- ・岩手県立総合教育センター教科領域教育担当(2016),平成 27 年度版『中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイドブック』
小林昭文・鈴木達哉，鈴木映司（2015），『アクティブラーニング実践』，産業能率大学出版部
- ・下町壽男・浦崎太郎・藤岡慎二・荒瀬克実・安彦忠彦・溝上慎一(2016)『アクティブラーニング実践Ⅱ』，産業能率大学出版部
- ・鈴木徹（2016），『地歴公民科におけるアクティブ・ラーニング型授業の進め方に関する研究「序論」』，岩手県高等学校教育研究会
- ・鈴木徹(2016),『教員研修を通しての学校現場へのアクティブ・ラーニング導入』，日本学校教育学会機関誌『学校教育研究』第 31 号
- ・鈴木徹（2012），『思考し，判断し，表現する地理』，中等教育資料
- ・松下佳代（2015），『ディープ・アクティブラーニング』，勁草書房
- ・松下佳代・石井英真（2016),『アクティブラーニングの評価』，東信堂
- ・松下佳代（2016），『アクティブ・ラーニングを深化させる教育カウンセラー授業における関係づくりへの貢献を問うー』日本教育カウンセリング学会 第 10 会公開講演&シンポジウム資料
- ・溝上慎一（2014），『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』，東信堂
- ・溝上慎一（2015），『トランジション課題解決のためのアクティブラーニング，学力との関係』産業能率大学授業力向上フォーラム資料
- ・溝上慎一（2016），『アクティブラーニングとしての PBL と探究的な学習』，東信堂